

家庭菜園相談室

今月の
テーマ

品種の特性を見極めて、 早・中生種の枝豆に挑戦



大豆を若いうちに収穫して食べるのが「枝豆」です。枝豆は、サヤを枝からもぎ取ると急激に味が落ちます。家庭菜園では、収穫してすぐに食べられ、枝豆本来の味が楽しめます。また、種を播く日程や品種（早生・中早生）を少しずつずらすと収穫期もずれて美味しい実を順番に食べることができます。

図1 作型目安

	品 種	3月	4月	5月	6月	7月	8月
エダマメ	おつな姫 (早生) 富貴 (中早生)	● (ポット播き)	● (直播き)	●	★	★	■
		▲ (トンネル使用)					

● 播種 ▲ 植付け ★ 中耕・土寄せ ■ 収穫

栽培の ポイント

1. 豆類は肥料が多すぎると茎や葉が育ちすぎ、花の数が減ってサヤ付きが悪くなるので注意してください。
 2. 直接畑にタネを播くときは、鳥などにタネを食べられないよう必ずネットなどをかけるようにしましょう。
 3. 株全体の8割くらいのサヤがふくらんだら収穫しましょう。
 4. 枝豆の収穫適期は、5日から1週間です。
- ※大豆(枝豆)花芽の付き方は早生種が主に温度の影響を受けるのに対して、晩生種ほど日長の影響を受けやすく、晩生種を早播きし過ぎると生長が進みすぎ(蔓ボケ)倒伏するなど品種の特性(種まきの時期)を守ることが大切です。

畑の準備：植付けの2~3週間前に完熟堆肥2^{kg}/㎡、苦土石灰100^g/㎡をまき、深さ20^{cm}位までよく耕す。植付けの1週間前には化成肥料(8-8-8)50^g/㎡を施します。

栽植密度：1条播きの場合は、畝幅60~70^{cm}、株間30^{cm}、畝高10~15^{cm}
2条播きの場合は、畝幅100^{cm}、条間50^{cm}、株間30^{cm}、畝高10~15^{cm}

種まき：タネをポット(直径9^{cm})に2~3粒、深さ2^{cm}位に播き、水をかけ暖かい場所で管理します。本葉(初生葉)が出たら2本に間引きします。本葉が2枚出たら、2本立ちのまま畑に植付けます(最低気温が、10℃以下の場合はトンネルを設置します)。直播きは、4月に入ってから三角クワなどで播き溝(深さ2^{cm}位)を付け、40~50^{cm}間隔でタネを置き、薄く土を被せた後、たっぷり水をかけます。

防虫ネット：種まき・植付け後、鳥害や害虫防除のために防虫ネット(寒冷紗)をトンネル掛けします。

水やり：直播きは基本的に根付いてしまえば水やりをする必要はありませんが、花が咲いてからは水が足りないとサヤ付きが悪くなります。土の表面が乾いたら水やりをしましょう。

追肥：花が咲き始めたタイミングで、化成肥料(8-8-8)30~50^g/㎡追肥します。なお、堆肥が十分入っているなら基本的に追肥は不要です。

土寄せ：苗が生育途中で倒れるのを防ぐためや、根の発達を促すために除草を兼ねて株元へ土寄せをします。土の表面を軽く耕して(中耕)、土寄せをします。

摘芯：晩生種や畑が肥沃で伸びやすいところでは、本葉が5~6枚開いたところで芯の先の柔らかいところを摘みます。側枝が出てサヤ数が増え、多収が期待できます(早生種では摘みません)。

病虫害：アブラムシ、カメムシ、ヨトウムシや幼虫がさやの中の豆を食べるシロイチモジマダラメイガが良く発生します。

収穫：サヤが大きくなり、実がしっかり膨らんだら収穫適期です。全体の8割くらいがふくらんだ段階で収穫しましょう。甘みが増す頃(1週間~10日程度)を逃さないようにしましょう。枝豆として収穫しないでそのまま枯れるまで放置しておけば、大豆として収穫ができます。

家庭菜園に関する相談は、営農経済センターのTAC(タック)までご連絡ください。